

第1回「テレワーク活用ネットワーク会議」の議事概要

日時 平成26年8月22日（金）10:00～12:00

場所 403会議室

委員（7名）

会長	猪子和幸	NPO法人ジェイシーアイテレワーカーズネットワーク理事長
副会長	米澤和美	徳島県社会保険労務士会副会長
委員	佐々木雅信	（事務局 藤岡氏が代理出席） 徳島県中小企業家同友会事務局長
委員	田澤由利	（金沢からテレビ会議で出席） テレワークマネジメント代表取締役
委員	葛籠枝美	（次の会議のため途中退席） テレコメディア人事部課長
委員	野田由香	NPO法人チルドリン徳島理事長
委員	和田かおり	（欠席） プラットイーズ代表取締役

猪子会長

- ・「テレワークサポートセンター（仮称）」構想を提案。
- ・クラウドシステムを構築し、しっかりとしたセキュリティのもと、テレワーカーに仕事を提供する（自営型・請負型）。さらに共同受注をすれば、幅広く、大量に業務受注もでき、より多くの仕事をテレワーカーに提供できる。
- ・また、自営型のみならず、雇用型として、テレワークを導入する企業に対し、クラウドシステムを提供すれば、コスト削減にもつながり、広がりが期待できる。

米澤副会長

- ・育児休業中の社員が働く場合、法律の壁がある。
- ・営業職がテレワークに適しているのではないか。
- ・生保レディは、雇用ではなく請負で働いている。現在、金融庁から、雇用には切り替えるよう指導が行われようとしているが、彼女たちこそ、テレワークに相応しいと思う。
- ・ICTが好きな社長が何人かいるので、テレワークを働きかけてみる。

野田委員

- ・東京で受注した仕事を、徳島でテレワークで行っている。
- ・メンバー（子育て中のママなど）が、得意分野の仕事を行い、また、急な理由により仕事ができなくなった場合でも、他のメンバーが代わって仕事を行っている。

藤岡氏（佐々木委員の代理）

- ・自分自身の体験として、企業は人材を探している一方、知り合いの子育て中のママで仕事を探している人もいる。ただし、そうした人はフルタイムで働くことが困難であり、テレワークであれば、そうした問題も解決できる。

田澤委員

- ・自分自身の経験（シャープに勤めていたが、子育てと夫の転勤のため退職）もふまえ、テレワークの有効性、必要性、課題について説明。
- ・企業が新たにテレワークの導入をする場合は、ぜひ専門家のアドバイスを受けるべき。自分の会社も、様々な課題を乗り越え、現在のテレワークスタイルを構築した。
- ・専門家派遣については、総務省や厚生労働省の助成金等があるので、積極的に活用すべき。

まとめ

- ・猪子会長提案のテレワークサポートセンターの実現に向けての検討や、国助成金を活用した専門家の派遣など、様々な観点からテレワークの導入を図る。
- ・メンバーは7人で発足したが、ネットワークの広がりを図るため、他にも適任者がいれば参加していただき、様々な意見をくみ取る。
- ・企業アンケートでニーズ把握を行う一方、講演会を開催し、広くテレワークの有用性を県内企業に知ってもらう。
- ・本日は、キックオフの会議であり、今日の意見がすべてではなく、常にメール等で情報交換・情報共有を行い、活動を進める。